



別添資料1

足立区の高齢者孤立死 データ分析結果

当分析では、「単身者の自宅での死亡」を「孤立死」と定義します。

■■■■ 目次 ■■■■

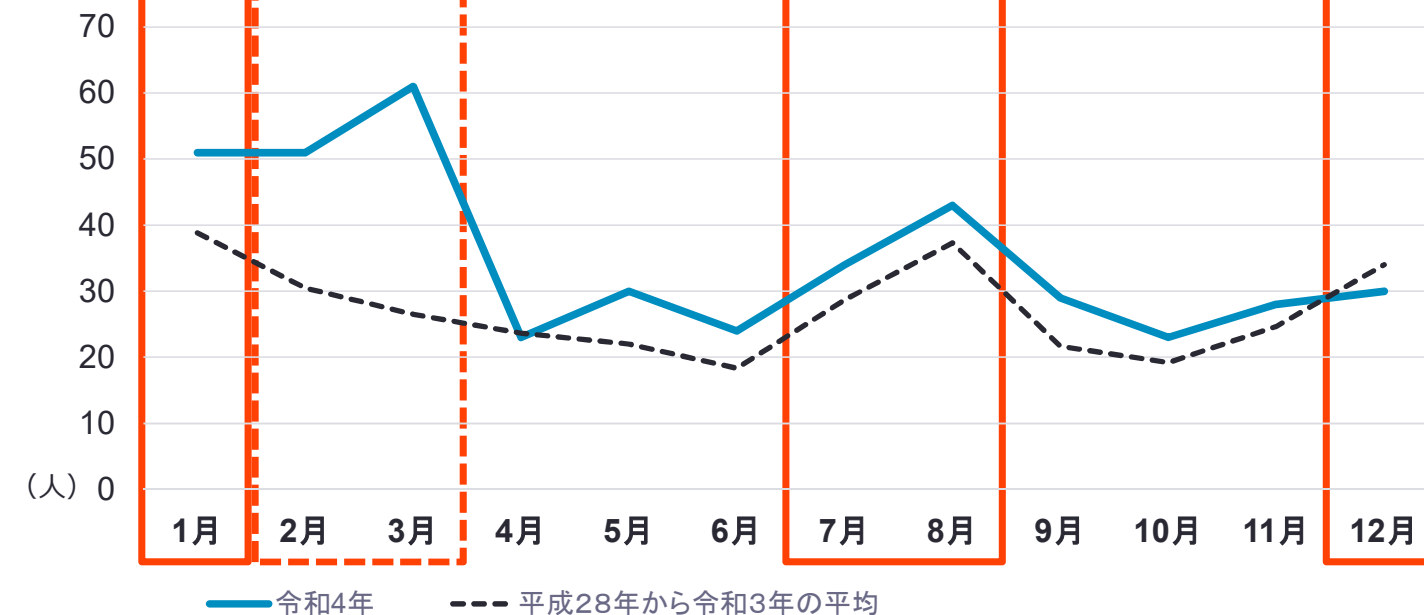
1 死亡時期別の集計結果	
（1）月別高齢者孤立死	（P 3）
（2）夏季（7月・8月）の高齢者孤立死（最高気温別）	（P 4）
（3）夏季（7月・8月）の高齢者孤立死（最低気温別）	（P 5）
（4）冬季（1月・12月）の高齢者孤立死（気温差別）	（P 6）
（5）死亡直前の状況別	（P 7）
2 性別による集計	（P 8）
3 コロナ禍における変化	（P 9）
4 集計結果・分析	（P 10）
5 今後の取り組み	（P 11）

【データ出展】

- | | |
|---|----------|
| ① 東京都監察医務院提供データ（平成28年～令和4年） | （全ページ） |
| ② 気象庁ホームページ「過去の気象データ検索」 | （P4、5、6） |
| ③ 東京都監察医務院ホームページ「令和4年夏の熱中症死亡者数の状況【東京都23区（確定値）】」 | （P5） |

1－(1) 月別高齢者孤立死

年月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	高齢者 孤立死 増加率 (対前年)	高齢者人口 ※	単身高齢者 人口※	単身高齢 者 増加率	単身高齢者 千人あたりの 孤立死者数
平成28年	26	27	34	18	29	13	23	20	23	9	25	35	282		165,910人	51,583人		5.5人
平成29年	35	22	22	19	17	23	14	25	18	17	23	35	270	-4.3%	168,323人	53,564人	3.8%	5.0人
平成30年	50	33	19	10	24	18	55	27	18	26	23	33	336	+24.4%	169,994人	55,268人	3.2%	6.1人
令和元年	51	28	31	27	20	16	33	58	13	18	25	29	349	+3.9%	170,890人	56,858人	2.9%	6.1人
令和2年	34	38	34	33	23	21	20	59	32	25	25	40	384	+10.0%	171,378人	58,285人	2.5%	6.6人
令和3年	37	35	19	35	19	19	27	35	26	20	27	32	331	-13.8%	171,715人	59,636人	2.3%	5.6人
令和4年	51	51	61	23	30	24	34	43	29	23	28	30	427	+29.0%	169,573人	60,733人	1.8%	7.0人
合計	284	234	220	165	162	134	206	267	159	138	176	234	2,379	(人)	※ 各年1月1日現在			



**令和4年の孤立死者数は
平成28年以降最大であった**

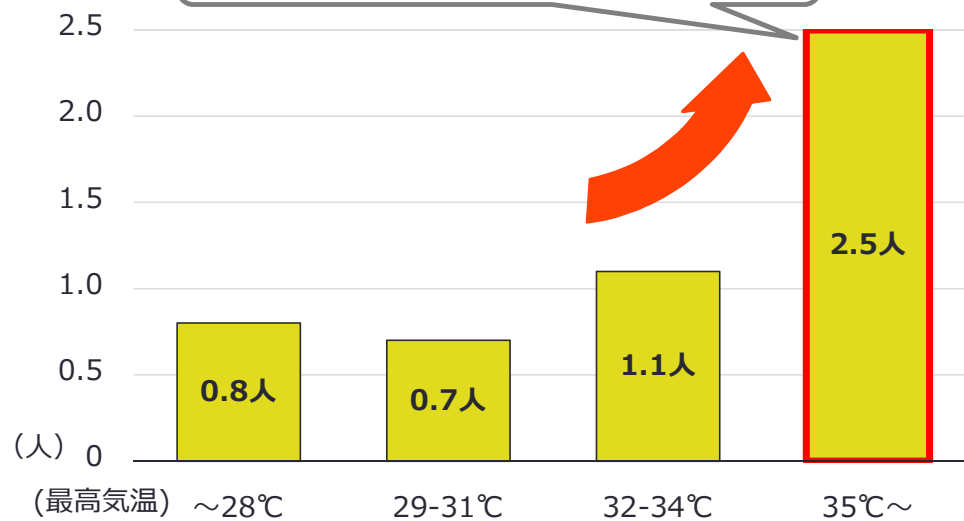
- 1 夏季（7月、8月）、冬季（1月、12月）の人数が増加する傾向は継続している。
- 2 令和4年は特に2月、3月の人数が増加している。

1－(2) 夏季(7月・8月)の高齢者孤立死(最高気温別)

最高気温別の平均人数／日

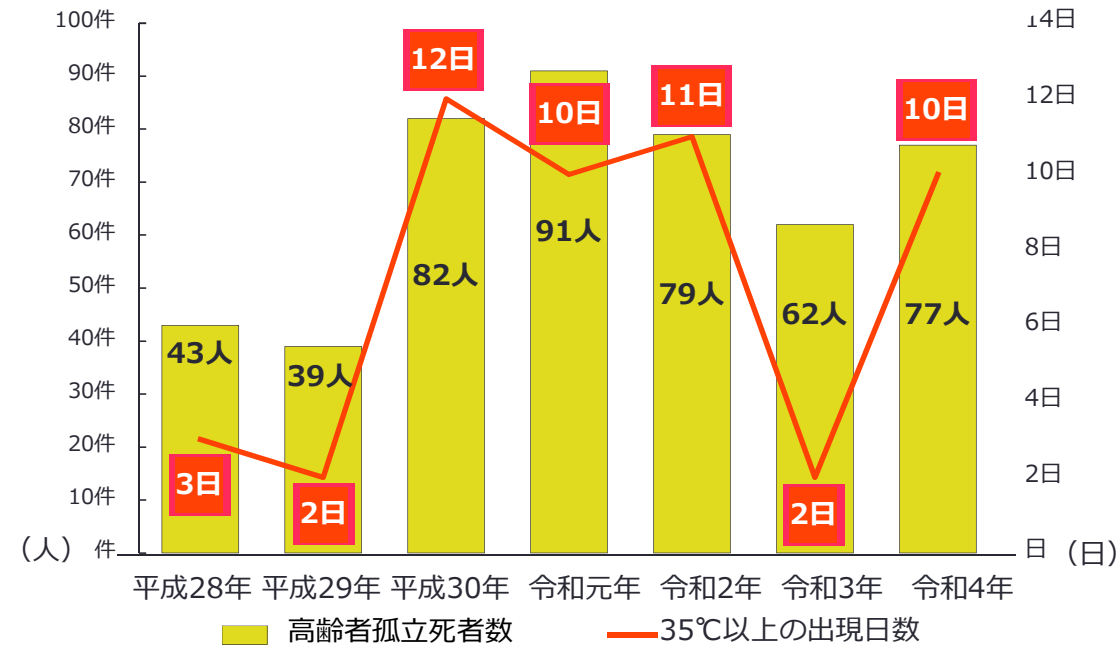
最高気温 35℃以上の日は平均 2.5 人
最高気温 35℃未満の日は平均 0.9 人

35℃未満と比較して孤立死リスクは2.8倍



35℃ (猛暑日) の出現日数と高齢者孤立死者数

35℃以上の出現日数に連動して、
高齢者孤立死者数も増減している。



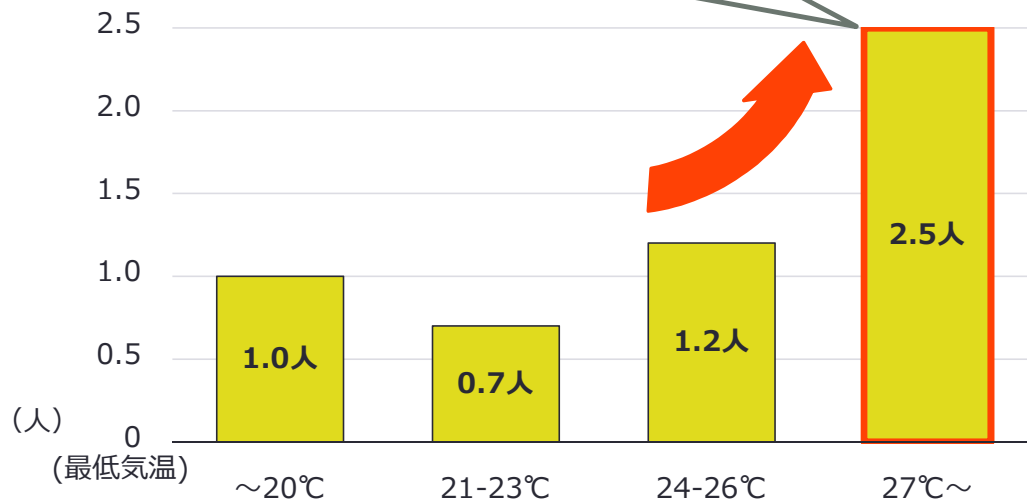
最高気温が35℃ (猛暑日) を上回ると、孤立死リスクが高まる

1－(3) 夏季(7月・8月)の高齢者孤立死(最低気温別)

最低気温別の平均人数／日

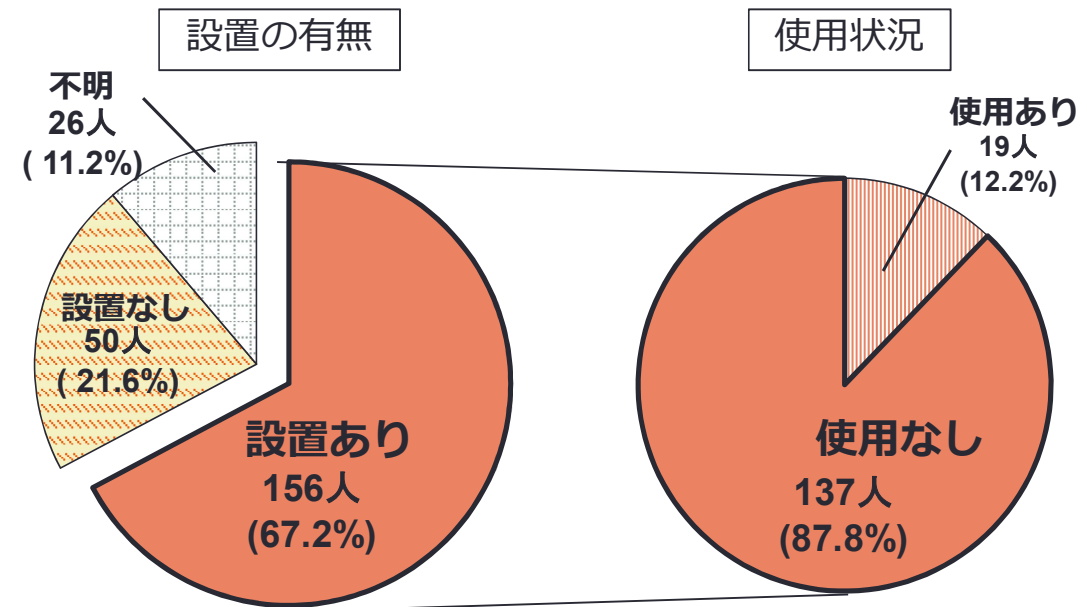
最低気温 27℃未満の日は平均1.0人
最低気温 27℃以上の日は平均2.5人

27℃未満と比較して孤立死リスクは2.5倍



最低気温が27℃を上回ると
孤立死リスクが高まる

熱中症死亡者(屋内)のエアコン設置有無および使用状況 令和4年6～9月(特別区内全域、世帯構成・年齢不問)

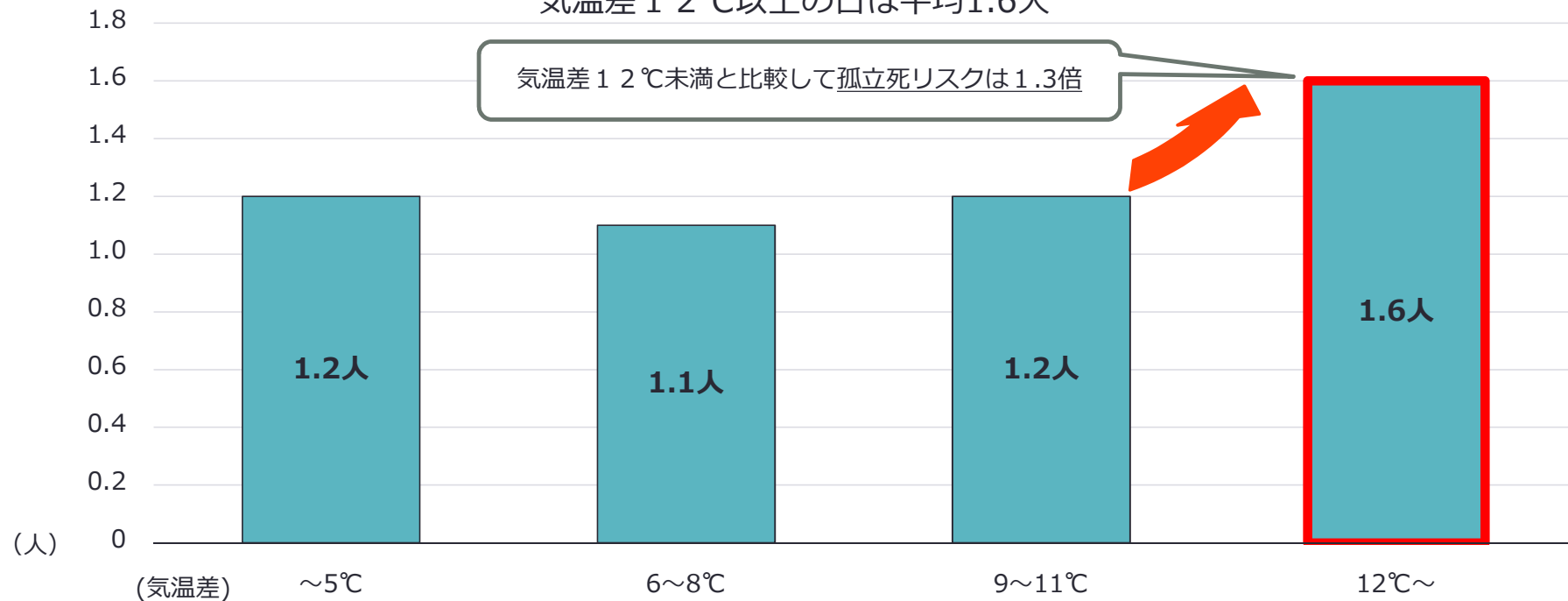


エアコンが使用できる状況であった熱中症死亡者のうち、**87.8%**は使用していなかった。

1-(4) 冬季(1月・12月)の高齢者孤立死(気温差別)

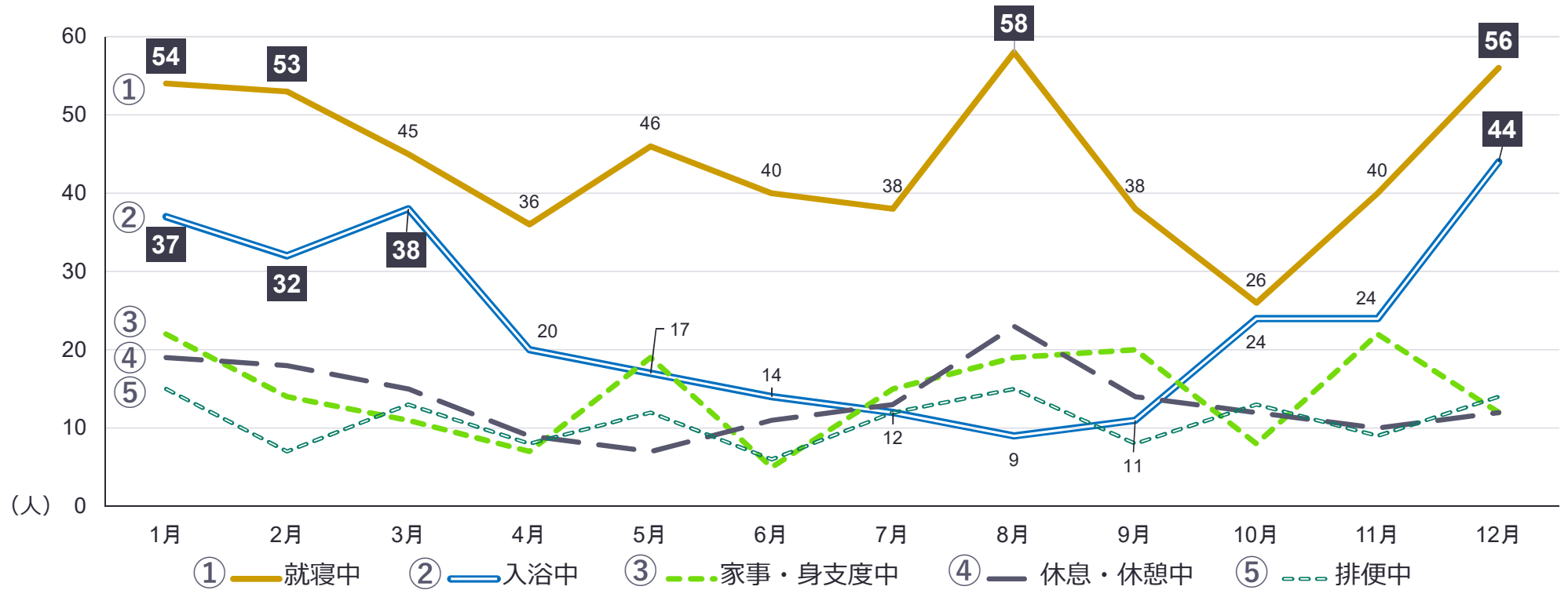
気温差(最高気温-最低気温)別の平均人数/日

気温差 12℃未満の日は平均1.2人
気温差 12℃以上の日は平均1.6人



気温差が12℃を上回ると孤立死リスクが高まる

1－(5) 死亡直前の状況別



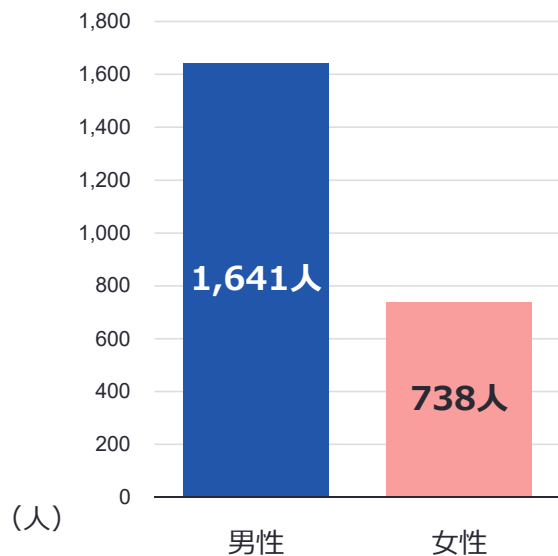
※ 状況別孤立死者数上位5種を集計（その他、不詳を除く）

「就寝中」の人数は一年を通して多く、夏季（8月）と冬季（1、2、12月）は特に孤立死リスクが高まる
「入浴中」は冬季（1、2、12月）から春季（3月）に孤立死リスクが高まる

2 性別による集計

性別ごとの高齢者孤立死者数

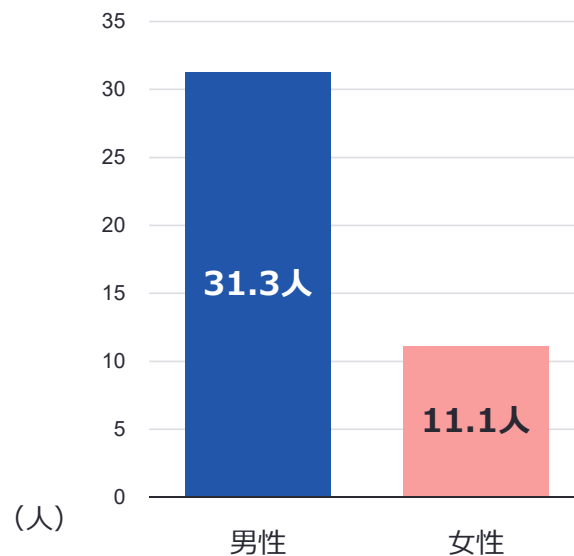
男性1,641人 女性738人



男性の方が2.2倍多い

性別ごとの1万人当たりの
高齢者孤立死者数

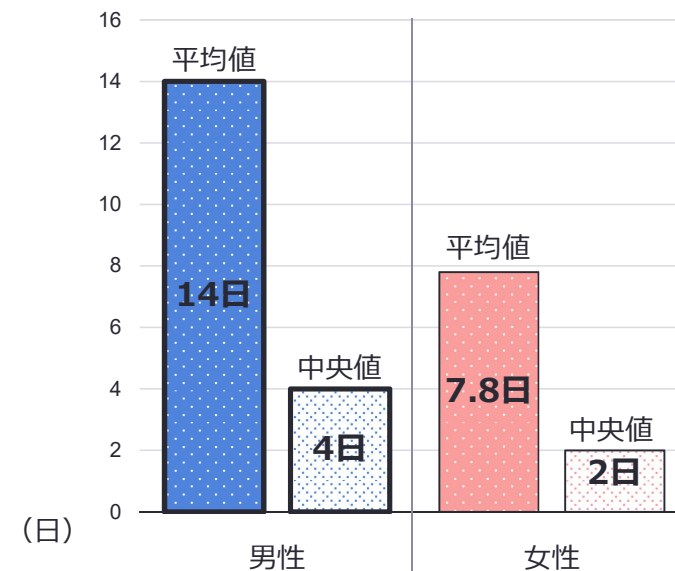
男性31.3人 女性11.1人



男性の方が2.8倍多い

性別ごとの死後経過日数

【平均値】男性14.0日 女性7.8日
【中央値】男性4.0日 女性2.0日
【最大値】男性81日 女性35日



いずれも男性の方が期間を要している
また、30日以上経過は83%が男性であった

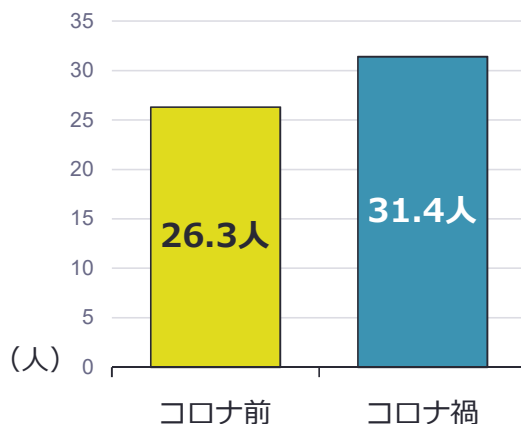
3 コロナ禍における変化

死亡日において、平成28年1月～令和2年3月をコロナ前、令和2年4月～令和4年12月をコロナ禍と定義する。

発生者数（月平均）

コロナ前 26.3人
コロナ禍 31.4人

19%増加

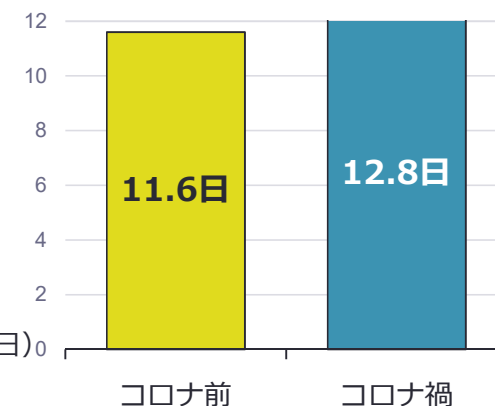


死後経過平均日数

コロナ前 11.6日
コロナ禍 12.8日

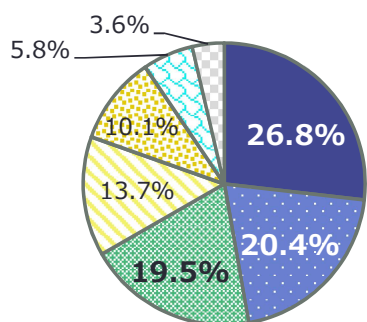
10%増加

※ 中央値は4日から3日
へ減少



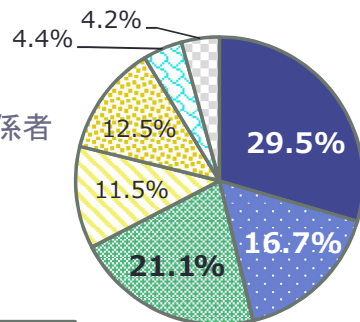
発見者の割合

コロナ前



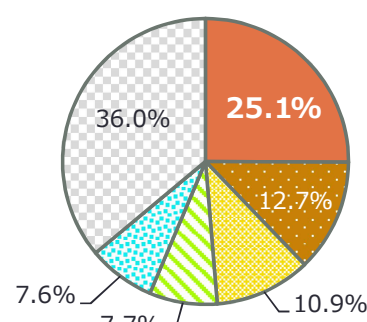
大きな変化なし

コロナ禍



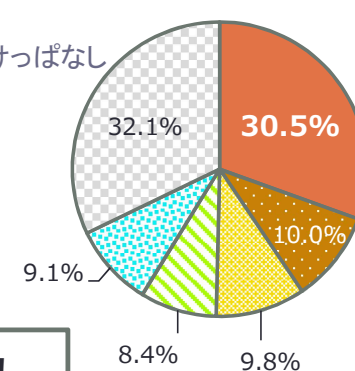
発見の経緯の割合

コロナ前



大きな変化なし

コロナ禍



4 集計結果・分析

	集計結果	分析
(1) 時期別	ア 令和4年の孤立死者数 P3 分析開始以降最大となった。特に、過去の平均と比較して2月、3月に増加した。 イ 夏季の孤立死者数 P4、5 最高気温が35℃（猛暑日）を上回ると、2.7倍になった。最低気温が27℃を上回ると、2.5倍になった。 ウ 冬季の孤立死者数 P6 最高気温と最低気温の気温差が12℃を上回ると、1.3倍になった。	ア 令和4年2月、3月の孤立死増について 死亡直前の状況が就寝中・入浴中の死者数が増加していることが分かったが、最低気温、気温差等の気候条件との関連性は見られず、はっきりとした理由は解明できなかった。また、新型コロナウイルス感染症による増加もなかった。 イ 夏季・冬季の孤立死の傾向について 夏季は最高気温と最低気温、冬季は1日の気温差と孤立死者数に関連性があった。この傾向は、令和元年度に分析を始めたときから同様である。
(2) 状況別	ア 状況別の孤立死 P7 【就寝中】1、2、8、12月は、他の月と比較して孤立死のリスクが高まる。 【入浴中】1～3、12月は、他の月と比較して孤立死のリスクが高まる。	ア 状況別の孤立死の増加について 夏季に増加する状況別の孤立死については、エアコンの使用などの熱中症対策により防止効果が期待できる。一方、冬季に増加する入浴中の孤立死については、ヒートショック対策が有効だと考えられる。
(3) 男女別	ア 高齢者男性の孤立死者数 女性と比較しては男性が2.2倍多い。 P8 イ 発見までの平均経過日数 女性と比較して男性が1.8倍多い。また、30日以上経過したケースは83%が男性だった。	ア 男性の孤立死・経過日数について 孤立死者数、発見までに要した平均経過日数は、女性に比べ男性が大幅に上回っていた。過去の集計結果と比較しても、同じ傾向にある。 男性の死後経過日数が令和3年度集計結果と比較して0.7日増加したが、発見までに483日の事案が1人あったことで、平均値を押し上げた。

5 今後の取り組み

- (1) 絆のあんしんネットワーク連絡会や地域包括支援センター、町会・自治会等の関係機関に対して本分析結果を共有し、男性の孤立を防ぐため、周知・啓発を進めるとともに、サロン活動や自主グループ立ち上げ等の働きかけを行っていく。
また、孤立死が増加する夏季・冬季の見守りの強化を依頼していく。
さらに、区民に対しても広報等で直接的に周知・啓発を進めていく。
- (2) ビューティフル・パートナーとして出展するイベントなどにおいて、引き続き協力員の登録を広く呼びかけることで、若い世代などによる新たな気づきの目を増やしていく。
- (3) 環境政策課（エアコン購入費補助金）、建築防災課（浴室暖房設置工事費助成）、衛生管理課などの関係所管と連携し、より効果的な孤立死対策について検討していく。